

令和2年度決算分 統一的な基準による財務書類について

【財務書類について】

高岡地区広域圏事務組合では、平成 27 年度決算から統一的な基準による財務書類として、「貸借対照表」「行政コスト計算書」「純資産変動計算書」「資金収支計算書」の4つの書類を作成しています。

【対象とする会計】

一般会計、地域振興事業会計（特別会計）

【各財務書類の概要】

○貸借対照表（BS = Balance Sheet）

対象年度末時点で、事業を行うために保有している「資産」が、返済の必要な「負債」で賄われているか、返済の必要のない「純資産」で賄われているかというストックの状態を示す書類です。

○行政コスト計算書（PL = Profit and Loss statement）

対象年度 1 年間における費用と収益を示す書類です。現金収支を伴わない減価償却費なども含めて示されています。

○純資産変動計算書（NW = Net Worth statement）

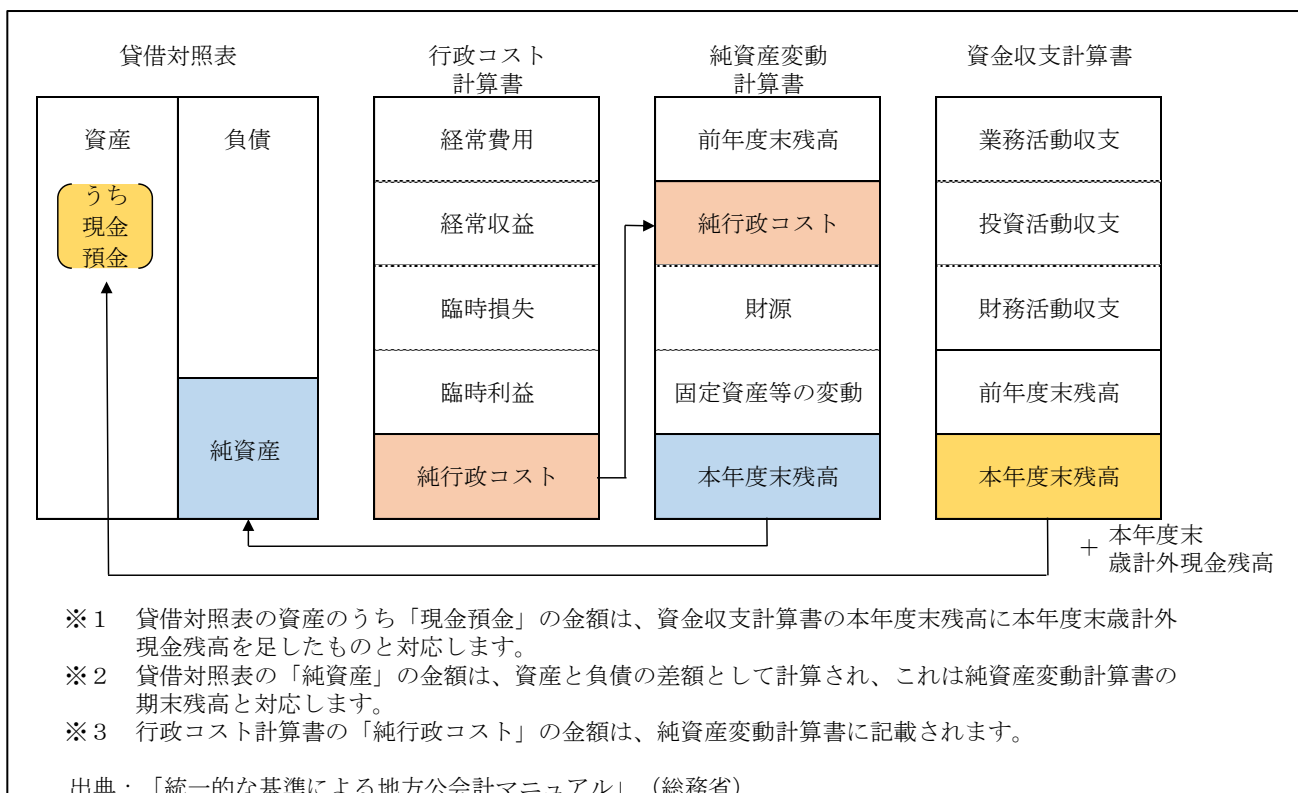
対象年度 1 年間において、貸借対照表（BS）中の「純資産」と、その内訳である「固定資産等形成分」及び「余剰分（不足分）」がどのように変動したかを表す書類です。

○資金収支計算書（CF = Cash Flow statement）

対象年度 1 年間の業務活動・投資活動・財務活動それぞれの歳計現金（資金）の出入りを示す書類です。

【財務書類間の相互関係】

財務書類 4 表は、次のとおり相互に関係しています。



【分析指標について】

財務諸表中には様々な数値が示されており、多くの情報を得ることができます。

次頁からは、作成した財務諸表を活用して、次の5つの視点で財務状況を分析した指標を掲載しています。

1. 資産の状況
2. 資産と負債の比率
3. 負債の状況
4. 行政コストの状況
5. 受益者負担の状況

＜指標中の人口について＞

分析指標の中には、圏域住民一人あたりに換算した金額等を記載したものが 있습니다。基準となる人口については、次のとおりです。

広域圏人口

	高岡市	氷見市	小矢部市	合計
R2年度人口	168,390	45,579	29,360	243,329
R1 年度人口	169,530	46,420	29,727	245,677
H30 年度人口	171,174	47,197	30,004	248,375

※ 各年度における3月31日現在の住民基本台帳に基づく人口

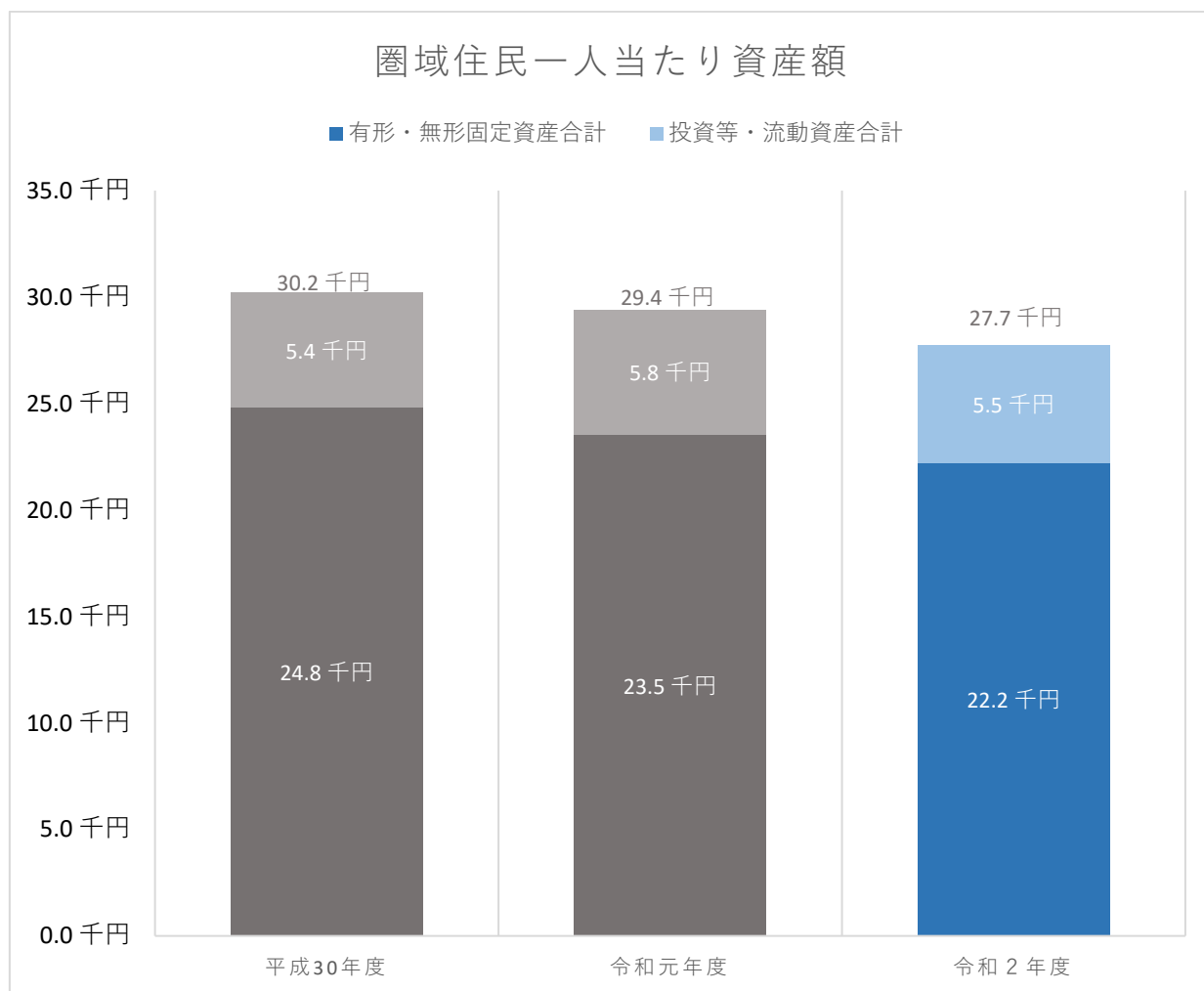
1.資産の状況（将来世代に残る資産はどれくらいあるか）

(1) 圏域住民一人当たり資産額（千円）

<算式> = 資産合計 ÷ 住民基本台帳人口（3/31現在）

関連項目値	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①資産合計（BS）	7,498,298千円	7,216,663千円	6,752,085千円
（ ・ 有形・無形固定資産合計 ・ 投資等・流動資産合計	（ 6,163,264千円 1,335,034千円	（ 5,782,935千円 1,433,728千円	（ 5,404,895千円 1,347,189千円
②住民基本台帳上の各年度末人口	248,375人	245,677人	243,329人
圏域住民一人当たり資産額（①／②）	30.2 千円 （ 24.8 千円 5.4 千円	29.4 千円 （ 23.5 千円 5.8 千円	27.7 千円 （ 22.2 千円 5.5 千円

- ・ 組合に帰属する「資産」の総額と、住民一人当たりに換算したときの金額を示します。

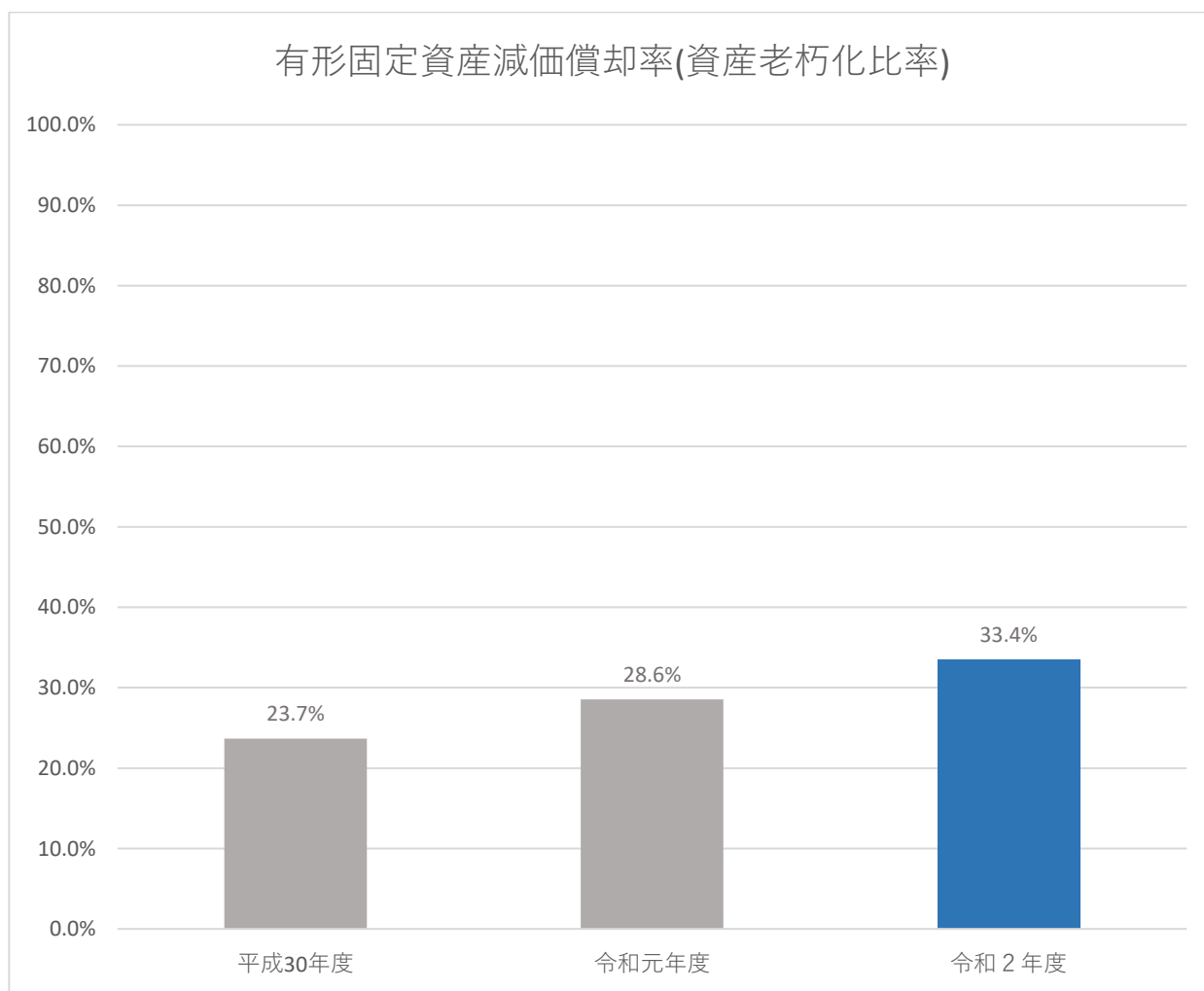


(2) 有形固定資産減価償却率(資産老朽化比率) (%)

＜算式＞＝減価償却累計額 ÷ (有形固定資産合計 - 土地等の非償却資産 + 減価償却累計額)

関連項目値	平成30年度	令和元年度	令和2年度
① 減価償却累計額 (BS)	1,835,793千円	2,216,122千円	2,594,162千円
② 有形固定資産合計－土地等の非償却資産 ＋減価償却累計額 (BS)	7,761,336千円	7,761,336千円	7,761,336千円
有形固定資産減価償却率 (①／②)	23.7%	28.6%	33.4%

- ・「償却資産」全体がどの程度減価償却されているか（＝耐用年数をどの程度経過しているのか）を示します。



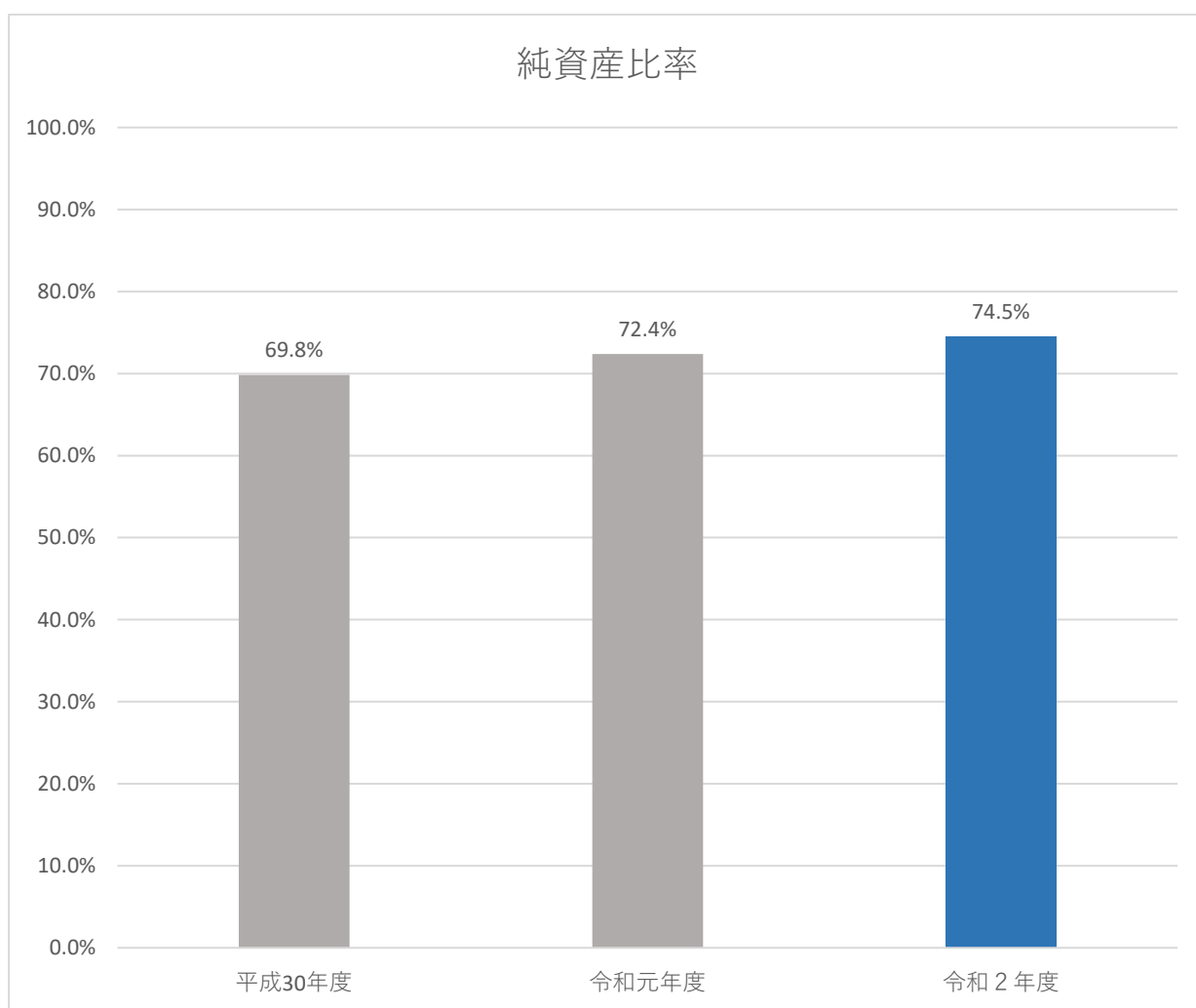
2.資産と負債の比率（将来世代と現世代との負担の分担は適切か）

(1) 純資産比率（％）

＜算式＞＝純資産合計÷資産合計

関連項目値	平成30年度	令和元年度	令和2年度
① 純資産合計（BS）	5,236,462千円	5,223,239千円	5,027,718千円
② 資産合計（BS）	7,498,298千円	7,216,663千円	6,752,085千円
純資産比率（①／②）	69.8%	72.4%	74.5%

- ・「資産」の総額に対する「純資産」（将来返済の必要がない財源）の割合を求めることで、世代間の公平性を示します。



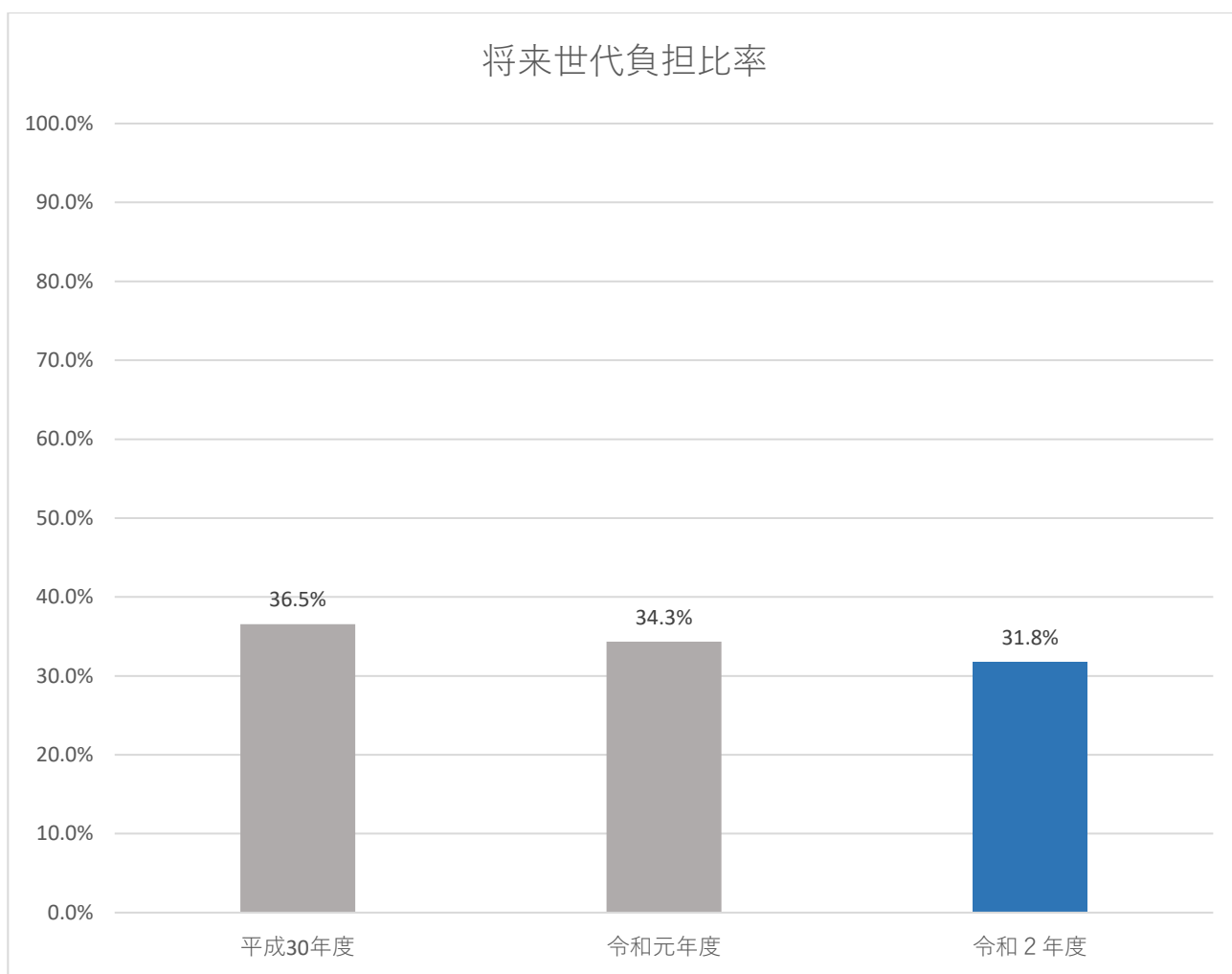
(2) 将来世代負担比率 (%)

＜算式＞＝ 地方債残高（※） ÷ 有形・無形固定資産合計

関連項目値	平成30年度	令和元年度	令和2年度
① 地方債残高※	2,252,511千円	1,985,539千円	1,717,937千円
② 有形固定資産＋無形固定資産（BS）	6,163,264千円	5,782,935千円	5,404,895千円
将来世代負担比率（①／②）	36.5%	34.3%	31.8%

※将来世代の負担とならない臨時財政対策債等の特例地方債残高を控除。

- ・過去に形成した「有形・無形固定資産」と、その財源を将来世代の負担で調達した金額である「地方債」の残高を比較し、将来世代の負担としてどの程度残っているかを示します。



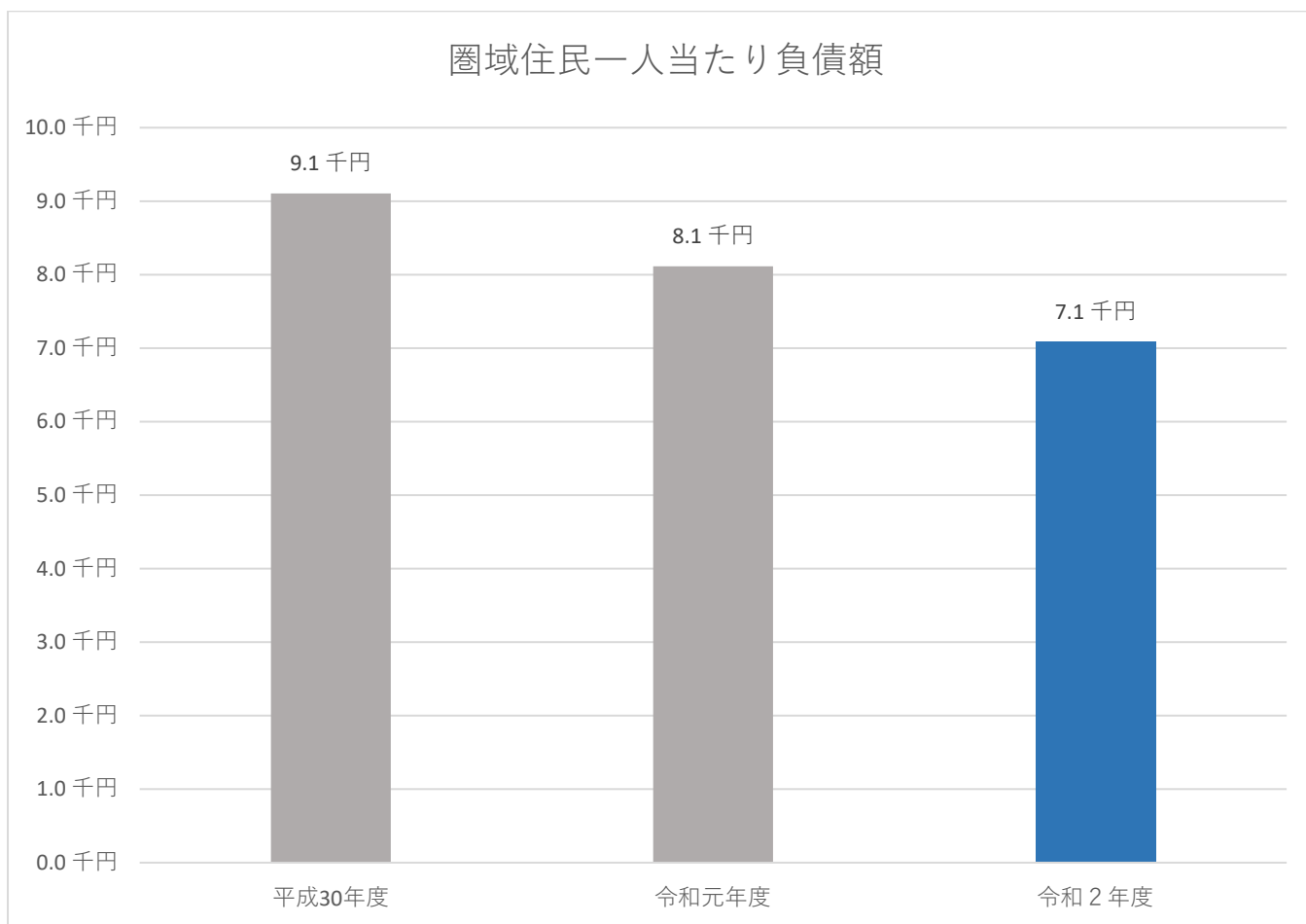
3. 負債の状況（財政に持続可能性があるか）

(1) 圏域住民一人当たり負債額（千円）

＜算式＞＝ 負債合計 ÷ 住民基本台帳上の各年度末人口

関連項目値	平成30年度	令和元年度	令和2年度
① 負債合計（BS）	2,261,836千円	1,993,425千円	1,724,366千円
② 住民基本台帳上の各年度末人口	248,375人	245,677人	243,329人
圏域住民一人当たり負債額（①／②）	9.1 千円	8.1 千円	7.1 千円

・ 組合に帰属する「負債」の総額と、住民一人当たりへ換算したときの金額を示します。



4. 行政コストの状況（行政サービスは効率的に提供されているか）

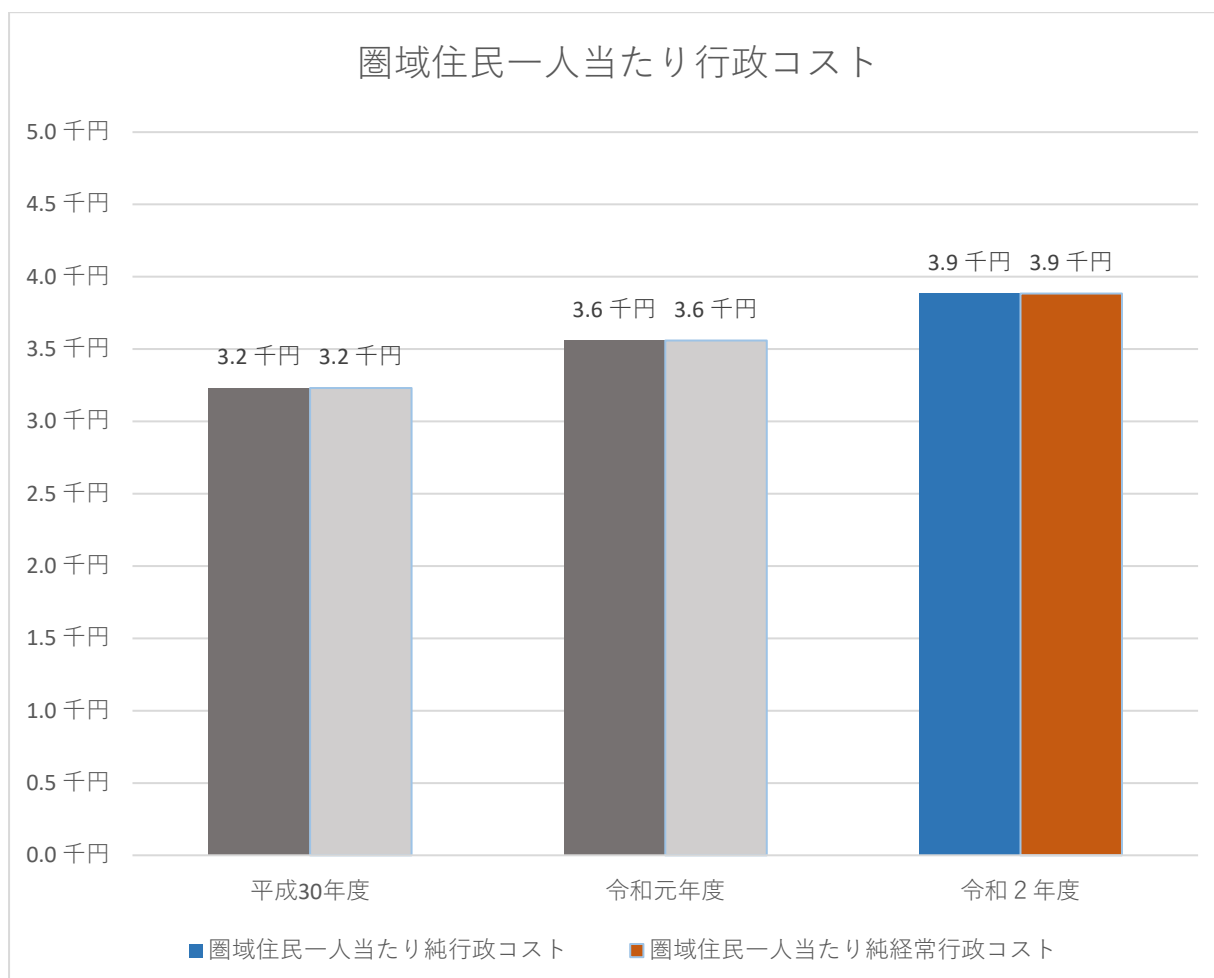
(1) 圏域住民一人当たり行政コスト（千円）

＜算式＞＝ 純行政コスト（純経常行政コスト）÷ 住民基本台帳上の各年度末人口

関連項目値	平成30年度	令和元年度	令和2年度
① 純行政コスト（PL）	802,415千円	874,418千円	945,078千円
② 純経常行政コスト（PL）	802,415千円	874,418千円	945,078千円
③ 住民基本台帳上の各年度末人口	248,375人	245,677人	243,329人
圏域住民一人当たり行政コスト	(①／③)	3.2 千円	3.6 千円
	(②／③)	3.2 千円	3.6 千円
		3.9 千円	3.9 千円

・組合の年間の「行政コスト」の総額と、住民一人当たりに換算したときの金額を示します。

（①②が同額の場合、臨時的な収支がなかったことを意味します）



5. 受益者負担の状況（歳入はどのくらい税率でまかなわれているか）

(1) 受益者負担の割合（％）

＜算式＞＝経常収益÷経常費用

関連項目値	平成30年度	令和元年度	令和2年度
① 経常収益（PL）	483,201千円	498,802千円	487,514千円
② 経常費用（PL）	1,285,616千円	1,373,221千円	1,430,953千円
受益者負担の割合（①／②）	37.6%	36.3%	34.1%

- ・行政コスト計算書の「経常収益」は、使用料・手数料など行政サービスに係る「受益者負担」の金額を表すので、これを「経常費用」と比較することにより、提供する行政サービス全体に対する受益者負担の割合を示します。

